

東京の水

学習院女子中等科

二年北組

田口 琴乃美

水筒持って行きなさい!!

家を出る直前、キツンから母の大きな声か。

ウオ！タ！ワ！ラ！の！水！飲！む！か！ら！い！い！！

ウオ！タ！ワ！ラ！の！水！飲！む！か！ら！い！い！！

と、無理矢理水筒を持たされる。ウオ！タ！ワ！

ワ！ラ！の！水！お！い！し！の！に！何！で！だ！ろ！う！

その日はバスケット部の部活の日。たくさん汗

をかき、持って来た水筒の麦茶は早々に無く

なっってしまった。そして、結局ウオ！タ！ワ！

ラ！ハ。冷たい水を一気に飲む。やっぱり

おいし！い！。家に帰り、母に聞いてみた。

「ねえ、水道水、何でだめなの？」

「えっ？水道水って、塩素臭くてまずくな

い？それに、安全面も気になるし。」

そう言われ、私と母の水道水への印象が違

ことに気が付いた。私は気になっ、東京都

の水道事情について調べてみた。

すると、高度経済成長以前の東京の浄水場
 では、水質の良い多摩川の水をろ過し、最低
 限の塩素で殺菌消毒した水道水を提供してい
 たことが分かった。しかし、高度経済成長期
 に入ると、人口や産業が都市へと集中し、工
 業排水や生活排水が増加。また、下水の整備
 が遅れたことなどによって、多摩川は水質汚
 染が続くようになり、渇水も問題になった。
 東京都は、新たな水源として利根川水系を開
 拓し、消毒の強化を行ったが、それだけでは
 対応し切れなかった。一九七〇年代後半には、
 水道水から異臭がするといった苦情が、年間一
 〇〇〇万件を超えたそうだった。
 そして、浄化システムの強化が必要になり、
 「高度浄水処理」という、従来のろ過に加え、
 オゾン処理と生物活性炭吸着処理をする、新
 しいシステムが開発された。これにより、今
 のようなおいしい水道水になった。一九
 九二年以降、苦情はなくなっただけで、い
 るらしい。母の成長期は、まさに東京の水道

水の苦情が多かった時期に重なっていた。
 おいしい水道水になったことは分かったが、
 安全性について気になったので、続けて調
 べてみた。水道水は必ず塩素で消毒される。
 これは、水質を安定させるために、法律によ
 って決められているからだ。水道法では、残
 留塩素を１リットルにつき、０・一ミリグラ
 ム以上、一ミリグラム以下に保持するよう
 に規定されている。これに対し、東京都は０・
 四ミリグラム以下という、独自の厳しい基準
 を設定している。また、残留塩素が水中の有
 機物と反応することによって発生する、トリハ
 ルタンという発がん性物質は、WHOの基
 準では１リットルにつき０・二ミリグラムな
 のに対し、東京都は０・〇六ミリグラムと、
 はるかに低くなっている。残留塩素も少なく、
 安全面について問題ないことが分かった。
 調べたことを一通り母に伝えると、
 「へうすごいね、ほんとに安全でおいしい水
 に改良されたんだね！」

私は嬉しくなり、さらに調べを進めた。他に
 も分かっていたことがある。例えば、私には東京
 の水道の基準が、当たり前前だが、世界を見
 ると、飲める水道水を提供している国は、実
 は多くはない。一六カ国程度だ。蛇口をひね
 っ出て出てくる水を安心しておいしく飲めるの
 は、とても恵まれたことなのだ。また、浄
 水場から家庭などへ配水される時に、水道管
 から水が漏れる、漏水率は、世界の大都市
 の平均が一〇パーセント前後となっていて、中
 で、東京都は三・六パーセント、と驚異的に
 低い。これは、地面の上に探知機を置き、
 耳で聞いて漏水箇所を発見する、という超人
 的な職人技や、配水管の劣化対策で、総延長
 二六〇〇〇キロメートルにも及ぶ水道管を、
 一九六〇年代から四〇年かけて交換してきた
 ことによるらしい。そして、こんなに高品質
 なのに、日本の水道料金は、世界の国々と比
 べてもとても安いのだ。たくさんの水道水のす
 びい所を知り、私は自分のことのようにみんな

なに自慢したくな

調べたことを母と話していると、横で聞い

ていた兄から、水源林での森林保全活動のボ

ランティアがある、という話を聞いた。兄の

通う農学部の人に参加しているらしい。安

全でおいしい高品質の水のためには、多摩川

上流域の森林の育成や管理も欠かせないのだ。

他に、水源林ツアというものもあるらしい。

ボランティアは私にはまだ難しそうだが、

まずは、水源林ツアに参加してみようかな。

そして、水道水についてもっと自分のことと

して考え、関わっていきたい。